

## 2021 年度期 第 3 回理事会（拡大理事会） 議事録

日時：2022 年 6 月 19 日（日）15:00-16:05

開催方法：オンライン

出席理事・監事：樗木、笠原、佐藤、杉村、富成、中村、柘原、南津、宮原、山内、ラングリッツ（敬称略、以下同様）

分科会代表：稲永、武藤（※第 1 号議案の審議のみ参加）

記録者：柘原

### 【審議事項】

#### ◆第 1 号議案：年次大会における研究分科会の発表について（樗木）

- ・2023 年秋の年次大会からすべての研究分科会の発表を定例化したい、との提案がなされ、承認された。提案の趣旨および背景については、末尾の「第 2 号議案資料」を参照。

#### ◆第 2 号議案：第 2 回議事録の承認（笠原）

承認された。

#### ◆第 3 号議案：会員の異動について（南津）

井田浩之氏（城西大学）の入会が報告された。

※詳細は末尾の「資料：第 3 号議案 会員の異動」を参照。なお井田氏は紹介で入会したわけではないとのこと。

#### ◆第 4 号議案：会員への謝礼の支払いについて（笠原）

今年度夏季セミナー講師への謝礼について、以下のとおり承認された。

- ・非会員の吉村先生に【謝礼 3 万円＋資料代 5 千円】
- ・会員の宮畑先生、石山先生、山内先生には、【謝礼ナシ＋資料代 5 千円】

#### ◆第 5 号議案：年次大会における招待発表について（宮原）

- ・現在のところ、年次大会での発表希望者はゼロ。発表者を確保する手段の一つとして、「招待発表」が提案され、以下の方向で承認された。

- ・「他己推薦」とし、理事会での審議は行わない。
- ・テーマに沿った内容であるべき。
- ・謝礼として 5,000 円を支払う。
- ・特別の時間枠を設けるのではなく、普通の発表と同じ扱いにする。
- ・まずは運営委員会で会員を対象に改めて声をかけてから「招待」するのがよいだろう。

#### ◆染谷先生のご逝去に関連して（樗木）

※議案ではないが話し合いを行い、以下を確認した。

- ・特別のニューズレターを企画中である。
- ・ご本人が目立ったことをご希望ではなかったため論文集等は作成しない。

・年次大会の開始時に会長が参加者に黙禱をお願いし、社員総会において染谷先生について紹介し参加者で思いをはせる時間を設ける。

## ■第1号議案資料

一般社団法人 日本メディア英語学会 2021年度 第3回拡大理事会

2022年6月19日

ZOOMによるオンライン開催

**【提案】** 2023年秋に開催する年次大会から、全ての研究分科会の発表を定例化したい

### 【提案の趣旨と背景】

年次大会がオンライン化されて数年経過するが、ますます顔の見えない学会となりつつある。

研究分科会は、地区例会と並び、会員間の研究活動の基本単位であり、研究分科会の活性化が年次大会や学会全体の活性化に結びつくことは間違いない。本学会定款にもある「その成果を社会に発信し、もって学術文化の発展に寄与するとともに、社会的な貢献を積極的に果たしていく」という目的に合った活動実績をこれまでの年次大会で発表を定例化することで実行している研究分科会もある。研究分科会の研究成果を会員間や社会に発信する場として、年次大会をその定例の場として年間活動に組み込むことで、本学会の社会的責任の遂行を透明化し、学会の更なる活性化を図る。

### 【提案実施の具体的方法】

2023年秋に開催予定の年次大会において、全ての研究分科会の枠を設定する。タイムテーブルや時間配分は今後の理事会と2023年の年次大会運営委員会で検討する。

## ■第3号議案資料 会員の異動

(1) 入会

	氏名	所属	専門
1	井田浩之（いだ ひろゆき）	城西大学	応用言語学，教育学

\*所属希望分科会は、英語教育・メディア研究分科会（東日本地区），メディア英語教授法・教材研究分科会（西日本地区）

以上